

新瀬戸内市立図書館整備実施計画（郷土資料部門）素案 概要

郷土資料とは

- ・「郷土や郷土関係者などに関する文献、視聴覚資料、博物館的資料などの当該地域に関する一切の資料」です。
- ・郷土資料は、本市に関する歴史、文化、経済、産業等に関する資料であり、過去や現状を知り、将来を考える上で有効な財産となります。すなわち、**市民の共有財産**であり、**知的資源**です。
- ・郷土資料を適切かつ継続的に収集・整理・保存・提供することは、本市の責務であり、**市民の知る権利を保障**するものです。

図書館内に融合設置の意義

- ・現在単独資料として展示している現物資料を、テーマをもって、図書館資料と関連付けで融合展示することにより、図書館の利用者を含め身近に郷土資料に触れる機会の提供や、郷土・歴史資料としての「現物資料」と図書館資料の両方から多角的な学びを得られるという、効果的な学習情報を提供することができます。

郷土資料部門の機能

- (1) 展示機能
- (2) 講座等の開催による学習支援
- (3) 資料の収集・保存および調査・研究
- (4) 公文書館機能

展示スペースの内容

- ・図書館に来館する様々な興味関心を持つ市民に、図書館資料を探索する中で、郷土資料と自然と目に触れるよう、展示スペースを配置し、郷土資料の定期的な展示替えを行います。
- ◆喜之助記念スペース
 - ・邑久町地域の特色として位置づけ、世界的人形師竹田喜之助を映像や関係資料で顕彰し、物語単位で一定の数の喜之助人形を展示します。
 - ・集いのスペース内に人形劇の舞台を設け、隣接して喜之助記念スペースを設置し関連性をもたせます。
- ◆瀬戸内市紹介スペース
 - ・郷土学習および瀬戸内市紹介の基本となるスペースにするとともに、エントランスに近い位置に設置し、郷土資料企画展示等の導入部として機能を果たします。
- ◆地域ゆかりの人物紹介スペース
 - ・市の発展に尽くした名誉市民や市ゆかりの人物を映像や遺品、作品で功績を紹介します。
- ◆企画展示スペース
 - ・時代、地域、分野、話題等により、様々なテーマで郷土資料を用いた企画展示を行います。
- ◆収蔵庫スペース
 - ・温湿度管理等が必要な人形や貴重資料を保管収蔵します。